

# 令和4年度学校評価結果について

広野小学校長 山川 育英

## I 学校評価の実施にあたって

広野小学校では、令和4年度の学校評価を次のような方法で実施した。

1. 評価基準は「A：はい B：どちらかといえば『はい』 C：どちらかといえば『いいえ』 D：いいえ」に統一した。その上で、「A：はい」「B：どちらかといえば『はい』」を高い評価として捉え、それ以外を低い評価（反省すべき項目）として、その要因を分析した。
2. アンケートを通じた児童、保護者、教職員の評価については、令和3年度との比較の上で今年度の教育について分析した。分析では、まず、継続して評価がよかったものについてその内容と方策を検討し、より一層高められるように取組に生かさればと考える。また、重点項目について、前年度より優れていたもの、逆に劣っていたもの、前年度同様に評価の低かったもの、今年度の教職員が低い自己評価をおこなったもの等について取り上げ、分析した。
3. アンケート項目のうち、児童、保護者、教職員の3者に類似した内容がある場合は、3者のとらえ方の違いも分析する上での判断材料とした。
4. 上記の方法でまとめたものを、学校を外部から観察していただいている3名の学校運営協議会委員の方に送付し、2月下旬の運営協議委員の席でご意見を伺った。ここでご指摘いただいた内容についても、教職員の反省を加え末尾に掲載している。
5. まとまった学校評価については、今年度中に広野小学校ホームページで公表する。

上記の方法で分析したことを、次に述べる。

## II アンケート分析と考察

### 1. 継続してよかった評価

#### (1) 授業や活動について

(アンケート該当項目 児童4, 6, 7, 14 保護者2, 3, 4 教職員2, 3, 7)

どの項目も継続してよい傾向にある。特に授業中の発言や勉強時間に新しいことを知ることが楽しいと感じている児童がほとんどである。それは、児童の実態を把握し、教師が一時間のねらいをもつとともに、学習課題やめあてを提示し、授業を進めている。そして、発問内容の意図を考え、児童の意見を大切にしている授業を展開しているからである。また、体験的な学習を取り入れるとともに、ICTを活用し分かりやすい授業をこころがけていることが、アンケートの結果からうかがえる。さらに、児童の発言内容を受け入れる雰囲気が学級にあるからだと思う。

また、ほとんどの児童が外遊びし、掃除の取りかかりもはやく、最後まで一生懸命する児童も多い。異学年活動（チーム活動）を実施し、児童が自ら考え、実践できる活動を継続しているからだと思う。今後も児童が楽しく活動し、分かる授業や児童が主体的・協働的に活動できる取組を続けていきたい。

#### (2) 学校生活・友達関係について

(アンケート項目 児童8～13 保護者5 教職員5, 12)

学校へ行くのが楽しいと思う児童の割合が高い。また、学級の友達だけでなく他の学年の子と活動することを楽しく、その中で、自分の話を聞いてくれる友達が多いと感じている。それは、異学年活動（チーム活動）が充実しており一人一人の役割がある活動や行事を実践しているからだと考えられる。さらに、今年度は、活動に取り組む前や途中で話し合う場面も見られ、自分の意見や考えを受け止めてくれる友達や仲間・教師の存在も大きいと思う。ここから、児童相互の人間関係や児童と教師の人間関係も良好であることがうかがえる。また、今年度から始まったひろっこ広場への「友達の頑張りやよいところ」の掲示は児童と児童、児童と教師をつなぐよい架け橋となっている。

### (3) 環境や施設・設備の安全点検，安全確保について

(アンケート項目 児童14，保護者6，15，16 教職員14，15)

教室や廊下の整理整頓ができており，校舎内の環境が整備されている。さらに，校舎内での事故を未然に防ぐために，施設・設備の安全点検や迅速な修繕・修理を行う体制が整えられている。登下校の安全確保や災害を想定した避難訓練も年間を通して実施できている。また，児童は時間いっぱい一生懸命掃除を行う習慣が身につけている。縦割り班清掃（チーム清掃）や朝のボランティアタイムで高学年が率先して掃除を行うことで，全校児童が短い時間で掃除を終えることができ，校舎内外の美化が保たれている。ただ，様々な状況に対処する訓練や危機管理マニュアルの改善点を生かした安全確保・避難訓練が十分できていないという課題もある。

## 2. 重点項目に関わる評価

### (1) 基本的な生活習慣について

(アンケート項目 児童1，2)

100%近い児童が朝ご飯を食べて登校しており，よい状況が継続され年々よくなっている。朝ご飯の大切さを食育指導等で児童に伝え，保護啓発も行われている結果だと思われる。また，食育パワーアップ作戦等で関係諸機関と連携をして，朝ご飯の大切さを指導する取組もその要因にあげられる。しかし，早寝早起きについては，「できている」児童の割合が減少しており，高学年になるにつれこの傾向が強い。就寝時刻が遅く，そのことが一日の生活リズムに影響を与え，起床時刻も遅くなる傾向にある。また，メディア使用時間も影響しており，長時間使用と深夜までの使用の傾向もみられる。今後は，児童自身が一日の生活サイクルを見直し，基本的な生活習慣を心がける必要がある。また，メディア使用については，家庭と連携し使用時間とその影響等を啓発していくことが大切である。

### (2) あいさつについて

(アンケート項目 児童3，保護者1，教職員4)

児童・保護者・教員とも継続してよい傾向にある。あいさつの大切さを常時指導し，児童が日々実践しているからである。また，朝のあいさつだけでなく，職員室の出入り・給食配膳時のあいさつなど，よい伝統が引き継がれている。家庭においてもあいさつの大切さを話していただき，家庭でも実践していただいているからだと思う。しかし，教職員の評価では，「よくできている」と評価している割合が減少している。あいさつ自体はできているが，声が小さかったり，相手の顔を見てできていなかったり，時と場所によってあいさつの仕方が十分ではないと感じている。今後とも，継続的にあいさつについて話をし，「声の大きさ，相手の顔を見て，相手より先にあいさつする」ことができるようにしていきたい。

### (3) 家庭学習について

(アンケート項目 児童15，保護者8)

昨年度と比べ，自信をもって「はい」「どちらかといえばはい」と答える児童の割合が減少している。学童で宿題を終わらせ，家庭での学習が十分できていない児童がおり，宿題をふくめ家庭での学習意欲低下の傾向が見られる。保護者に関しても同様で，家庭学習に不足を感じている傾向がある。ほとんどの児童が，毎日宿題を行い提出できている。しかし，家庭で音読や日記，休日での学習が十分ではないことが分かる。家庭での音読や日記は継続して行う。また，休日家庭でする課題を出す等，学年の発達段階に応じて課題の出し方や内容を職員研修で検討するとともに，保護者にも家庭で児童の自主学習や読書，日記を点検してもらうなど協力体制を築いていく必要がある。

### (4) 学校や家庭での読書活動について

(アンケート項目 児童16，保護者7，教職員7)

ほとんどの児童が，読書習慣が身につけている。しかし，保護者の結果からは，家庭において読書習慣が十分身につけていないことがうかがえる。この傾向は以前から見られ，家庭において読書が十分できておらず，教職員の結果も同じ傾向にある。また，読書内容や読む本についても課題があるように思う。朝の活動等で読書の時間が日課表の中に

組みこまれており、学校での読書の時間は確保されている。しかし、家庭での読書の習慣が身につけていないので、読書が子どもに与える影響について保護者に啓発し続け、週末読書の時間が確保できるようにしていく。また、家庭でのメディア使用時間も含め、生活習慣とも関係があると思われるので、改善していく手立てを考えていく。

#### (5) 情報発信・情報公開について

(アンケート項目 保護者9, 10, 教職員16)

学校の教育目標や経営方針については、PTA総会や役員会、学級懇談等で伝えるだけでなく、学校だより等で家庭に伝えることで、保護者の理解が進んできている。また、ホームページや学校だより・学年だよりに、児童の活動の様子や保護者へのお知らせ等を掲載し、情報発信を行っている。特に、ホームページでは、様々な教職員が学習や行事の様子を日々更新し児童の学校での様子や教育活動が分かるようにしている。しかし、ホームページ閲覧に関しては、昨年度に続き、十分な結果がでておらず、広報不足を感じている。保護者に広報を続けていく必要がある。

#### (6) 開かれた学校づくりについて

(アンケート項目 保護者12, 13, 17 教職員20, 21, 22)

昨年度に続き、コロナ禍において、授業参観やPTA行事が中止、縮小となったが、開催方法の工夫や開始の時期の見極めで活動できることが増えた。そのことが、保護者のアンケート結果からうかがえる。また、電話連絡等で児童の学校の様子を伝え、保護者との連携を常々行っている。今後も授業参観等を通して児童の活動の様子を見ていただいたり、保護者ともに活動できる内容を考えたりと、開かれた学校づくりに努めていきたい。そのためにPTA役員会や学年部会での話し合いを充実させ、保護者の方々と連携を図っていきたい。

### III 学校運営協議会委員からの意見

- 少人数のよさを生かし、コロナ禍にあっても工夫しながら学習活動や行事が行えていることがアンケート結果からうかがえ、先生方の取組に敬意を表したい。
- KMSやつなぐ公社・フードハブとの連携や協力を行い、キャリア教育につながる学習が子どもたちを成長させている。このような取組が神山でできることで子どもたちの夢を広げられることはすばらしいことである。
- 最近タブレット等ですぐに調べる便利さがあるが、体験を伴う活動ができていてすばらしいと思う。
- 縦割り班(チーム)でいっしょに掃除などができているのは、高学年のリーダーが、下級生のお世話をしっかりできているからであろう。また、下級生も上級生の姿を見て活動し、リーダーとして成長しているようである。それは、広野小学校のよい伝統であろう。
- 「ひろっこ広場」や「心のかけはしカード」に見られるように子どもの心が育っているようで、一言一言が優しくなり、学校の雰囲気も落ち着いていいのではないか。
- 家庭学習や週末読書、メディア使用時間等の課題があるが、学校と家庭・保護者が連携して継続して取り組む必要がある。

### IV 改善に向けての具体的な取り組み

今回の学校評価のまとめから、次年度は次のことを重点課題として取り組む。

#### 1. 学力向上に向けて

##### (1) 基礎学力の定着と主体的・対話的で深い学びの実践

- ①学習したことをドリルやプリント等で繰り返し行うことで、基礎・基本の定着を図る。また、児童の実態に応じた個別課題を与えることで、個に応じた学習を進める。
- ②主体的に学習に取り組めるように、授業の始めにめあてを提示し、学習の振り返りを適切に評価し、次時の学習に生かす指導を継続して行う。
- ③自らの考えや思い、思考の過程を文章に書く機会を設け、進んで発言できる力がつくような授業展開を心がけるとともに、学級だけでなく、低・中・高学年での話し合い活動を取り入れ、対話的な学習を展開する。

- ④校内研修等で学校や学年の学習の状況や実態を分析し、職員間で共通理解し、課題に応じた少人数での授業の研究や研修を進める。

## (2) 家庭学習の取組

- ①研修で家庭学習の手引き再確認をし、学年に応じた課題を出す。また、保護者への説明を繰り返し行い、宿題以外の家庭学習の仕方を身につけさせる。
- ②週末の課題を与えるとともに、自主学習の充実を図るために、テーマや課題を与える。また、内容がよかった自主学習ノートを掲示し、児童の自主学習に対する意欲を高める。
- ③学童・保護者とも連携し平日は、音読・日記は必ず家庭で行い、週末には家庭で行う課題を与え、保護者がチェックする機会も設ける。

## (3) 読書習慣の定着

- ①読書活動の時間を再検討し、本の選択等の読書の内容を考えると同時に、児童の読書意欲が高まるような手立てを教職員で考える。
- ②親子で読書をしたり、学校でも読み聞かせをしたりする機会を設け本に親しむようにし、週末読書を課題に出し、読書量を確保する。

## (4) ICTを活用した授業実践

- ①学年の発達段階に応じてタブレットが活用できるように、学年に応じたICTスキルが身につくように研修を進める。
- ②授業の中で、一斉学習・個別学習・協働学習の場面で、タブレットを有効に活用することを心がけた授業を実践する。

## 2. 基本的な生活習慣の確立

### (1) 規則正しい生活の習慣化

- ①早寝早起きの習慣が改善するように生活リズムチェック等で自分の生活リズムについて見直すとともに、保護者への啓発を続け、協力をあおぐ。
- ②「早寝・早起き・朝ご飯」の習慣が継続して行えるように保健学習や学活等で指導していくとともに、保健だよりや学年だよりを通して保護者に啓発し、保護者との連携をより一層進めていく。

### (2) メディア使用

- ①長時間使用や深夜の使用の児童が見られるため、個別に指導するとともに、学級懇談、学年だより・保健だより等で保護者への啓発を進める。
- ②長時間のメディア使用が、体に及ぼす影響を保健学習等で児童に考えさせ、講演会や研修の機会を設けることで保護者へも働きかける。

### (3) あいさつ

- ①あいさつの仕方や意義について朝会や学級で常時指導を行い、「いつでも、どこでも、だれにでも」あいさつができるように定着を図っていくとともに、教職員自らも率先してあいさつをする。
- ②地域のみなさん協力をいただきながら、学校・保護者・地域一体となってよりよいあいさつができるように努める。

## 3. 開かれた学校と情報公開・発信

### (1) ホームページ・学校だより・学年だより

- ①学習や行事の様子の掲載など更新を継続して行い、まちコミメールでホームページ視聴への啓発を促し、新しいコーナーを考え、発信内容の工夫に努める。
- ②学校だより等にホームページのQRコードを掲載し、スマートフォン等から簡単にアクセスできるようにする。

(2) 教育目標

- ①教育目標や方針は、P T A役員会や学級懇談や学校だより等で説明した結果、保護者への浸透のきざしが見られる、今後も分かりやすく保護者へ伝え続ける。
- ②学校だよりなどに常に教育目標を掲載するなど、保護者等が視覚的に捉えられるようにする。

(3) P T A活動・保護者との連携

- ①保護者からの意見や要望を受け止め、話し合いを通して連携を深め、児童・保護者・教職員ともに有意義なP T A活動を行う。
- ②保護者の願いや思いに耳を傾けるとともに、学校からのお知らせも児童の様子を定期的に保護者に伝える。

4. 働き方改革

- ①教職員自ら業務内容や勤務時間を見直し、勤務の効率化を図るとともに、年間を通しての行事を振り返り精選と見直しを図る。
- ②教職員の意見や考えが反映されるように、教職員研修にグループ討議を取り入れ、忌憚のない意見を取り上げる。